

学校法人扇城学園  
東九州短期大学  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## 東九州短期大学の概要

設置者	学校法人 扇城学園
理事長名	梅高 賢正
学長名	二五田 公俊
A L O	尾家 京子
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	大分県中津市大字一ツ松211番地

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		40
幼児教育学科		50
	合計	90

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

東九州短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の建学の精神は「浄土真宗の精神」の「和敬為宗」であり、正門横の和敬の碑に刻まれている。

教育理念は「健全有為な人材育成」と「地域社会の文化の向上発展に寄与」することを目的とし、その理念の具現化に向けて、教育内容及び教育環境が整備され、社会的活動が積極的に展開されている。

教育方針は「学生生活のしおり」に示されており、建学の精神・教育理念とともに新年度のオリエンテーション時に周知されている。教養科目、専門科目は体系的に設定され、各科目ともシラバスによりあらかじめ授業に関する情報が得られるように配慮されている。また、在学生に対して「授業評価アンケート」、「満足度アンケート」、卒業生に対しても「満足度アンケート」が実施され、その調査結果を教育内容や学生支援体制の改善に役立てている。

教育環境、学科教員数は短期大学設置基準を満たしている。入学支援、学習支援、学生生活支援、進路支援などの学生支援活動は、学生支援センターが中心となって、各種委員会、各学科の合同研究室と連携をとりながら十分な対応がとれるよう配慮されている。

教員の社会的活動は極めて積極的に行われており、「地域社会の文化の向上発展に寄与」している。さらに、社会的活動は教員だけに留まらず、学生によるボランティア活動なども多彩に行われている。

管理運営面では規程にのっとり理事会、評議員会が適切に開催されている。また、教学面については学長が中心となって組織的に機能している。

事業計画、予算の決定・伝達・執行については、寄附行為、規程などにに基づき適切に行われている。

改革・改善については、自己点検・評価報告書の発行と九州龍谷短期大学との相互評価によって努力されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神である「和敬為宗」は正門横に和敬の碑として刻まれるとともに、入学時の礼拝オリエンテーション、定期礼拝、必修科目「宗教学」やその他の宗教行事、大学祭である「和敬祭」などを通じて心の教育として重視され、学生だけでなく教職員、地域住民にも周知されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生に対してホームカミングデーの実施、グループ別情報相談会、ピアノ指導などによる個別指導を通じて充実した卒業後の支援が実施されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 地域に開かれた活動、ボランティア活動への学生の参加を全学をあげて支援している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 平成 14 年度より中津市の委嘱を受けて「中津市愛育研究センター」を設置したり、長年にわたり「チャイルドフェスティバル」を開催したりするなど、地域貢献を積極的に行っている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成 11 年度より自己点検・評価報告を行い、平成 13 年度より自己点検・評価報告書を作成、公刊している。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・

否) と連動するものではないことにご留意願いたい。

## 評価領域Ⅱ 教育の内容

- ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動の取り組みを全学的に実施し、教育全般について活発に改革・改善されることが望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

浄土真宗の精神に基づいた建学の精神・教育理念が確立され、学則及び「学生生活のしおり」に明確に示されている。この建学の精神・教育理念は礼拝や必修科目の「宗教学」の授業、入学時のオリエンテーション時だけでなく、年数回実施されている宗教行事としての花祭り・宗祖降誕会、報恩講、本願寺で実施される国内研修旅行の際にも周知を図っている。特に、正門横には「和敬為宗」と刻まれた石碑があり、学生、教職員とも日常的に石碑からその精神を感じ取ることができるだけでなく、大学祭についても和敬祭と称し、創始者の理想、建学の精神が継承されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

各学科とも教育目的・教育目標を達成するための教育課程が体系的に編成されている。各授業科目の教授目的、教授方法、評価方法についてはシラバスに明確に示され、年度当初のオリエンテーション時に配布、説明されている。

FD 活動については学科ごとで実施されているが、全学的な取り組みとして更なる充実を図ることが望まれる。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準を満たしており、教員の採用及び昇任人事についても選考規程に基づき適切に行われている。

教育環境については、幼児教育学科では平成 18 年度に音楽室、ピアノレッスン室、個

室のピアノ練習室などの充実が図られているが、食物栄養学科の実験・実習室などには老朽化が認められる。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各学科とも単位認定についてはおおむね適切であり、学科会議により意思疎通を図りながら、教員個人の評価の偏りを防ぐようにしている。

また、各学科とも「満足度アンケート」を実施するなど、当該短期大学の教育への期待と満足度の把握に取り組んでいる。卒業生の就職先に対しても学科教員の訪問によるインタビュー調査を実施し、今後の学生指導、進路指導に役立っているだけでなく、卒業生に対する卒業後の支援も積極的に行っている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

正・副クラス担当制を導入し、学生支援センターと連携をとりながら指導、助言を行っている。学習支援として、教員の空き時間や長期休暇を利用した個別指導、特別補習、基礎学力不足の学生に対する指導を実施している。

また、全学生を課外活動クラブに所属させ、地域活動、ボランティア活動への参加を促している。

#### 評価領域Ⅵ 研究

学生指導や多彩な年間行事を遂行する中で着実に研究実績をあげている。研究論文は隔年発行されている『東九州短期大学研究紀要』に積極的に掲載されている。

外部資金調達として、「本願寺教学伝道研究センター研究費」及び「真宗保育学会理事会研究資金」に積極的に申請が行われ採択されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

中津市唯一の高等教育機関として、地域社会に対して積極的な社会的活動を行っている。教員は地域住民に対しての生涯学習の機会の提供、公開講座、子育て支援などに取り組んでいる。

学生は自治体や学校などが実施する行事に、ボランティアとして積極的に携わっている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は教職員との意思疎通を図りながら、課題解決に向けてリーダーシップを発揮している。理事会、評議員会、監事の機能についてはおおむね適切に運営されている。

学長は円滑な短期大学運営に努めている。事務組織については、兼務教員の配置により適切に運営されており、学生からの信頼度も高い。スタッフ・ディベロップメント (SD)

活動は、外部研修への参加、内部業務の見直しなど前向きに取り組んでいる。

人事管理については、教員の校務負担増、少人数の事務職員への負担増などに対して、適正な人員配置が望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

中・長期財務計画の早期作成が望まれるが、事業計画、予算の決定・伝達・執行については、寄附行為、規程などに基づき適切に行われている。

財務情報の公開については、ウェブサイトによって実施されている。財務体質はおおむね健全である。

災害、防犯対策、コンピュータシステムのセキュリティ対策が実施されており、地球環境保全にも配慮されている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学は「自己点検・評価報告書」を発行し、業務改善と授業改善に役立てている。相互評価は平成 16 年度より九州龍谷短期大学と定期的に行っている。